

一

般

質

問



Q & A

町民の「声」を代表して
8人が質問

一般質問



伊木 真由子

ごみの減量化

問 本町では、平成9年のダイオキシン問題発生以降、ごみの50%減量に取り組んでいる。50%減量とは具体的にどのような目標か。

答 現在は、家庭系ごみ全体量を平成11年度比の50%減量とする取り組みである。ごみの減量は進んでいるが人口の減少が要因であった。そのため、第2次ごみ減量計画では、一人当たりのごみの減量に着眼点を置いた取り組みを行なっている。

問 平成22年から一人当たりのごみ量は、増えている。この状況から考えると、今までと違った取り組みが必要だと思うが何か考えはあるか。

一、ごみの減量化
二、高齢者の就労支援

答 水切りや生ゴミ処理機等減量に取り組んできたが、成果にむずびついていない。減量に結びつくものがあれば考えていきたい。



高齢者の就労支援

問 高齢になってもいかに元気に過ごせるかは重要な課題である。楽しみや生きがいを持つ高齢者はいきいきと暮らしている方が多い。定年後の過ごし方は人それぞれだが就労も生きがいの一つではないか。

答 就労をはじめとする社会参加の場、通いの場、活躍の場などに参加

することは生きがいづくりにつながると考える。

問 高齢者の就労場所としてシルバー人材センターがある。活用状況は。

答 平成29年度末の就業実人数は53人である。

問 働いている高齢者の数から見ると、利用が少ないのではないかと。シルバー人材センターが住民の方に有効に活用されるよう、仕事の多角化など必要ではないか。

答 新たな仕事の開拓も含め、社協ともしっかり協議していきたい。

